

# 織研教室

# ファーマーズマーケットに期待

まちの活性化

松本 大地

高い創造研究所代表取締役

治安維持にも役立つ

ファーマーズマーケット推進に農林水産省が乗り出した。「Marche Japon Project」は、生産者の所得向上や地域活性化を目的に、大きい都市にある公園や駐車場、地下街、ビルのエントランスなどを利用し、ここにテントやワゴンなどの仮施設を設ける直売事業運

## 人・モノ・情報集まる「市場」

営に対し、そのマルシェ設立の費用や運営費用を助成するもの。初年度は運営経費の全額を助成する大盤振る舞いで、1マルシェあたりの運営費の助成限度額として1億2000万円を予定したところ、全国の民間団体から、全国事業者は7件、マルシェ運営には58件の応募があり、マルシェ運営者として森ビルやTBSテレビなど10社と、全国事業者としてぐるなびが選定された。

古今東西、世界中のどの

都市でも市場は存在する。そもそも都市とは「都」

祭の事、政(まつりごと)は政治、祭りを意味し、「市」市場(いちば)は人とモノ、情報が集まる場所を意味しており、まさに市場は都市の象徴である。今、ファーマーズマーケットはアメリカで成長を続け、全米規模で急増している。米農務省の調査によると06年には4385カ所と

なり、統計を取り始めた1994年からは2.5倍となっている。マーケットを通して多くの地域住民が交わるため、地域社会のきずなづくりや治安維持にも役立つ。

70年代前半、ニューヨークのユニオン・スクエア周辺は犯罪者がたむろする危険な地域であった。76年にグリーン・マーケットが開催され、現在では週4回朝から夕方まで多くの市民やプロの料理人、観光客でにぎわう。今では市場の人氣が高まったことで次第に治安も改善され、マンハッタ

ン屈指のグルメレストランが集まるメッカとなった。

エコ訴求の意味も

このファーマーズマーケットを整理すると、三つのタイプに分類できる。

①大規模商業施設イベント型  
ト型  
ダイペロップが主催し、顧客と生産者とテナントを結ぶマーケットとして年に数回行うもの。東京ミッドタウンのミッドマーケットは、近隣住民やオフイスワーカーに対して07年からミッドタウンとの関係性を強化するコミュニケーションづくりを目的として



高知の日曜市は、毎週日曜日早朝から夕方まで市内中心部約1・3km片側2車線を占拠し、旬の野菜や果物、海産物、花、刃物、日用品、漢方薬まで揃う。ほかにも火曜市、木曜市、金曜市、土曜市が別の地域で開催される「街路市」の街

スタートした。国産の旬な食材に徹底的にこだわりの、また全ブリス試食ができることもあって、今では出店希望者は全国レベルとなり、地域産品販促の場ともなっている。

世界の大都市には常設のファーマーズマーケットは存在するが、東京には常設のファーマーズマーケットはない。ぜひ東京には、ライフスタイル創造型のファーマーズマーケットを、地方都市には、地域生活文化の向上のみならず、中心市街地活性化の大きな集客装置として地域振興常設型ファーマーズマーケットの取り組みを期待したい。

②環境共生イベント型  
NPO(非営利組織)団体などがエコ訴求イベントとして、公園などを利用して行うもので、代表例としては東京アースデイマーケットがある。06年から代々木公園やき並木で月に1度定期的に開かれ、東京近郊の無農薬や有機栽培などに

③地域振興常設型  
生産者を支援するNPO、行政、民間などが総合的な取り組みで行うもので、ほぼ年間を通して一定の場所で開催され、地域のライフスタイルの象徴であり、観光資源にもなっている。代表例としてはアメリカはオレゴン州ポートランドのファーマーズマーケット、日本では高知の日曜市がある。その歴史は1690年から始まり、出店者500軒の終日路上で開かれる市としては日本一の規模の生活市場である。高知市役所には産業政策課街路市係という専属の部署もある。